科目ナンバリング							
授業科目名<英訳>	日本史Ⅰ Japanese History I			担当者所属職名・氏名	国際高等教育院 教授　　吉江　崇		
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期	曜時限	月2	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

律令国家の形成

日本の律令国家の特色をその形成過程から把握し、それがその後の日本の歴史にどのような影響を与えたかについて理解することを目的とする。その際、研究史上の代表的な学説を取り上げ、内容を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相を客観的に捉える視座を養うことを目指す。

[到達目標]

古墳時代から奈良時代までの正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。

[授業計画と内容]

７世紀後葉に成立した日本の律令国家は、唐から導入した律令制を基盤に置いた国家であったが、先進的な制度・文化が積極的に採用された一方で、古墳時代以来の古来の伝統も色濃く残していたことに特色を有していた。ここでは、そうした日本の特殊性を把握するために、律令国家の形成過程を古墳時代から順を追って整理する。まずは、古墳秩序と国家の形成に関する議論や部民制についての議論を紹介し、成立期の国家の様相を検討する。次いで、大化改新の歴史的な位置付けに関する近年の議論に触れ、律令国家の整備過程をその転換点に着目しながら考察する。最後に、律令国家の中に存在したとされる前代以来の固有的様相について再検討し、律令国家の特殊性の把握につとめる。

第１回　古墳の秩序と国家形成―前方後円墳体制論―（１）
第２回　古墳の秩序と国家形成―前方後円墳体制論―（２）
第３回　治天下大王の統治―部民制論―（１）
第４回　治天下大王の統治―部民制論―（２）
第５回　王位継承の変遷―大兄制・皇太子制論―（１）
第６回　王位継承の変遷―大兄制・皇太子制論―（２）
第７回　大化改新の評価をめぐって―大化改新否定論―（１）
第８回　大化改新の評価をめぐって―大化改新否定論―（２）
第９回　日本律令の整備過程―近江令・飛鳥浄御原令論―（１）
第１０回　日本律令の整備過程―近江令・飛鳥浄御原令論―（２）
第１１回　天皇と貴族―畿内政権論―（１）
第１２回　天皇と貴族―畿内政権論―（２）
第１３回　皇位継承と法典―不改常典論―（１）
第１４回　皇位継承と法典―不改常典論―（２）
第１５回　期末試験／学習到達度の評価
第１６回　フィードバック

日本史Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

日本史Ⅰ(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

定期試験にて成績評価する。持ち込みは一切なし。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
吉村武彦著 『ヤマト王権』（岩波新書）ISBN:978-4-00-431272-7
吉川真司著 『飛鳥の都』（岩波新書）ISBN:978-4-00-431273-4
その他は授業内で随時指示する。

[授業外学修（予習・復習）等]

授業の進行はシラバスに記載の通りであるので、授業の進行を確認の上、各回の授業内容に想定し、予習をすることが望ましい。

[その他（オフィスアワー等）]

定期試験の採点は厳格・厳正に行なう。